

学び合い育ちあう、たくましい気山小学校の子

若狭町立気山小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	なし
地域及び家庭への学校公開	回(のべ) 5日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	8人
授業ボランティア(含:低ボラ)	10人
登下校支援ボランティア	約500人
その他(読み聞かせ)	28人

(3) 特色ある活動

テーマ「カヤ田の自然環境を生かした環境教育」

2 具体的活動内容

◆ 校区内の自然の宝庫であるカヤ田を活用した環境教育

校区内の中山地区には自然豊かな湿地、通称「カヤ田」が存在し、今では通常の田んぼではほとんど見られなくなったホトケドジョウやコオイムシなどの希少生物が棲息している。本校では数年来、このカヤ田をフィールドとして環境教育に取り組んでおり、昨年度は福井県小中学生科学アカデミーの県教育委員会賞を受賞した。

毎年、6月にはPTA事業として全校児童とその保護者が参加する親子自然観察会を実施しているが、数年前に観察道の木道を設置してからだいぶ年月が過ぎ、老朽化が進んできた。そこで今年度はPTAの役員の方の協力のもと、木道の修理と増設作業を行った。木道を設置するに当たっては、地元の環境NPOハスプロジェクト推進協議会のメンバーと地域学校協議会の委員が合同で協議を重ね、より良い方法を検討した。町の環境教育に関する補助金なども活用し、地元の材木屋さんの協力も得たり、PTA委員の方の中に設計関係の仕事に従事しておられる方に設計をしていただいたりして、木道の増設をすることができた。



また、カヤ田の休耕田を利用し、昨年度より稲作を行っている。この田んぼでは除草剤などの農薬をほとんど使用せずに稲作をおこなっているが、産卵期に田んぼに上がるフナなメダカが入りやすいように魚道を設置して、魚が増えるような工夫をし、田んぼの意義について学べる環境を作っている。本年度の観察会にもハスプロジェクト推進協議会のメンバーを講師として招き、田んぼの意義や希少生物が棲息できる貴重な自然環境について学んだ。

成果と課題

気山小学校がカヤ田をフィールドとして環境教育に取り組む始めてから数年が経過した。ここ数年実施して来たことにより、成果も現れているが、親子自然観察会も毎年同じような形で実施してきて、そろそろ内容についての見直しが必要ではないかという意見も出てきている。今後、継続的に実施していく上で検討が必要になってきている。